

第 343 回金沢眼科集談会 プログラム

日 時 平成 31 年 4 月 14 日 (日) 10 : 00 ~ 13 : 00

会 場 金沢大学附属病院 4 階宝ホール

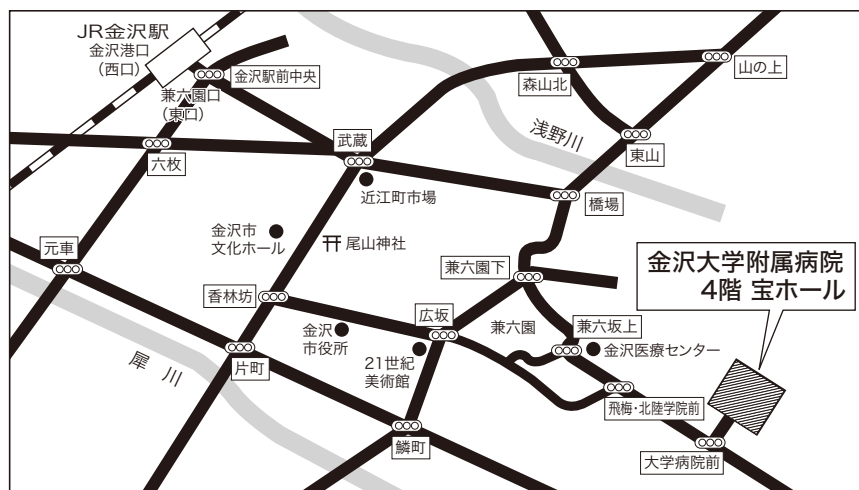
※例年と会場、開始時間が変更になっておりますのでご注意ください。

連絡先 : 〒920-8641 金沢市宝町 13-1

金沢大学眼科学教室

電話 (076) 265-2403 眼科事務室直通

F A X (076) 222-9660 眼科事務室直通



■金沢駅からタクシーで約15~20分 ■バス(金沢ふらっとバス)菊川ルート「大学病院」下車

- ・ 参加費は 2,000 円です。
- ・ 本学会は専門医制度生涯教育事業 (No. 59003) として認定されています。
- ・ 一演題質疑応答含めて約 15 分を予定しております。
デジタルプレゼンテーションに限ります。
パソコンはご自身のものをお持ち下さい。
- ・ 「眼科臨床紀要」に掲載しますので演者は抄録 (400 字以内) をデータ形式にてご提出下さい。

— 次回ご案内 —

2019 年 12 月 22 日 (日) の予定です。

一般講演

(10:00~10:45) 座長 ^{しばたしんすけ} 柴田伸亮先生 (金沢医大)

①両側眼瞼結膜に発症した IgG4 関連疾患の 1 例

○永井騰是也^{ながいとしや}¹⁾、柚木達也¹⁾、奥野のり子²⁾、笹原正清²⁾、林 篤志¹⁾

1 富山大眼科 2 富山大病態病理学

②災害等の停電時における眼科診療 ~PHEV 車の利用~

○田川考作^{たがわこうさく} (小矢部たがわ眼科)、河崎一夫 (神通眼科クリニック)

③涙道手術後に生ずるドライアイ予測因子の検討

○佐々木次壽^{ささきつぎひさ} (佐々木眼科)、繰納勉 (恵寿金沢病院)、杉山和久 (金沢大)

(10:45~11:30) 座長 ^{つじたかひろ} 辻隆宏先生 (福井大)

④オミデネパグ イソプロピル(エイベリス®)点眼液投与 2 か月の眼圧下降効果と副作用の検討

○齋藤代志明^{さいとうよしあき} (さいとう眼科)

⑤糖尿病黄斑浮腫に対するトリアムシノロンアセトニド硝子体内投与後の眼圧における硝子体手術の既往の有無の影響

○^{ひらいゆうこ}平井裕子、折井佑介、高村佳弘、後沢誠、盛岡正和、山田雄貴、稲谷大（福井大）

⑥レバミピドはラタノプロストによる角膜上皮障害を抑制する

○^{ふくだまさみち}福田正道、神山幸浩、三田哲大、柴田奈央子、柴田哲平、宮下久範、石田秀俊、久保江理、佐々木洋（金沢医大）

教育講演（11：30～12：00）

座長 ^{ひがしでともみ}東出朋巳（金沢大）

「私の使用経験から見た iStent の実力」

福井県済生会病院 眼科部長 ^{にったこうじ}新田耕治先生

白内障手術と同時手術が可能な Minimally Invasive Glaucoma Surgery (MIGS) として認可された iStent トラベキュラーマイクロバイパスステントシステム (iStent) を使用した手術を 2016 年 11 月から当院では日本でいち早く導入し 2018 年 11 月現在で 102 眼に水晶体再建 + iStent 挿入術を施行した。演者の経験では初めの 10 例ほどは iStent のハーフパイプ部がシュレム管内に平行に挿入できずに難儀することがあった。術後に iStent のシュノーケル部が虹彩に捕獲され眼圧上昇を認めた症例も経験した。普段緑内障隅角手術を施行しない眼科医にも広く普及するであろう術式であり iStent 挿入時のコツやトラブルシューティングを紹介したい。また、当院における水晶体再建術・iStent 挿入術の術後短期成績について述べ、現時点での緑内障手術における iStent 手術の位置づけについて考えてみたい。

特別講演 (12 : 00~13 : 00)

座長 すぎやまかずひさ **杉山和久** (金沢大)

「症例から学び研究する緑内障学」

すぎやまかずひさ
金沢大学 教授 **杉山和久**

金沢大学眼科学教室の礎を築かれた高安右人教授は、今から 110 年前の日眼総会で「奇異なる網膜中心血管の変化の 1 例」を報告した。これが、後に「高安病」と呼ばれる眼を含めた全身疾患の発見の発端となった。我々が高安病から学んだことは、網膜・脈絡膜の虚血に対する網膜血管の反応形式、病態生理をどう理解するかという、現代でも通用する問題であった。そして、症例を丹念に観察し記載するという、臨床医学の原点であった。翻って、1 例 1 例の症例から学ぶことの大切さは現在でも不変である。日常の緑内障診療の現場は、緑内障を勉強する最良の教室であり、患者さんは多くのことを我々に教えてくれる先生である。本講演では演者が約 30 年間に緑内障症例から何を学び、研究をして、その結果何を解明できたかを提示することにより、症例から学び研究する「緑内障学」への扉を開き、学問として緑内障診療をする楽しさと研究の方法論を伝えたい。以下の内容で講演する。

1. 乳頭出血が教えてくれること
2. 眼圧日内変動はなぜおこるのか？どう予測するのか？
3. トラベキュlectミーと眼血流、合併症克服への道
4. 後期緑内障眼への硝子体手術は要注意！